宮崎大学
University of Miyazaki
～世界を視野に 地域から始めよう～

報道発表

令和２年１０月３０日

各報道機関　　御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（１０月分）の配信について

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

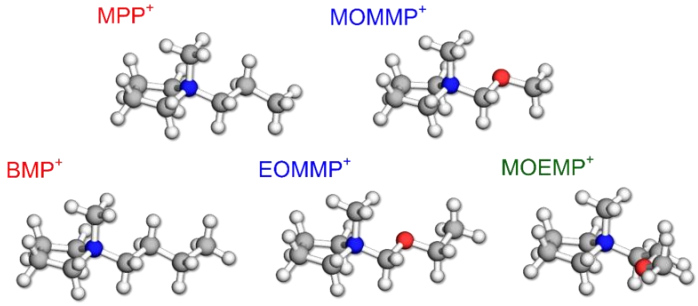
敬具

① 発信元
宮崎大学企画総務部総務広報課
TEL：0985-58-7114　FAX：0985-58-2886

宮崎大学　最近のトピックス（令和２年度10月分）

1. イオン液体のイオン伝導性に影響する分子論的メカニズムを 実験・理論的アプローチによって解明
2. 宮崎大学医学部看護学科後援会から５０万円の寄附があった
3. 令和２年度　宮崎大学大学院秋季入学式を挙行
4. 「令和２年度宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」を開催
5. 綾中学校が修学旅行で宮崎大学を訪問
6. 医学部附属病院から宮崎フードイベントサポート協会に感謝状を贈呈
7. 宮崎基地特攻資料展記念講演会を開催
8. 宮崎大学公開講座「親子で学ぶ天気と防災」を実施

イオン液体のイオン伝導性に影響する分子論的メカニズムを 実験・理論的アプローチによって解明

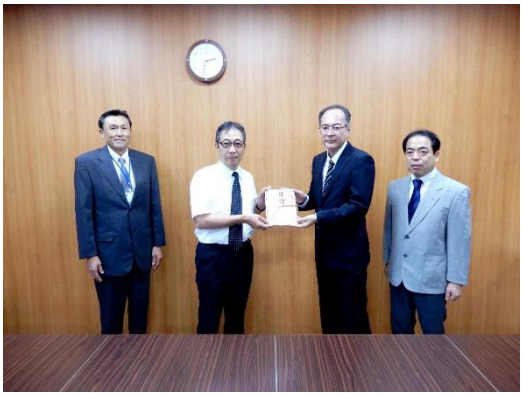


宮崎大学キャリアマネジメント推進機構テニュアトラック推進室の宇都卓也助教が参加する共同研究グループは、ピロリジニウム型イオン液体で側鎖エーテル酸素の位置がイオン伝導性を向上させる分子論的メカニズムを解明することに成功した。この研究成果は、多様な産業用途が期待される電解質や機能性溶媒の設計に役立つものである。

イオン液体は100℃以下で液体として存在する塩であり、一般的な有機溶媒には無い特徴を持つために注目されている。低融点・低粘度のイオン液体を設計することが要求されているが、分子構造（化学構造）と物性や機能との相関は不明な点が多い。本研究では、実験と理論的アプローチを組合せることで、エーテル酸素の位置に由来するカチオン構造の柔軟性が融点や粘度、イオン伝導度などの物性に影響することをつきとめた。分子シミュレーションにおいて実測データを再現する分子力場パラメータを独自に開発することにも成功し、公開した力場パラメータは様々な理論的研究で活用されることが見込まれる。今後、イオン立体構造を制御することにより新規なイオン液体系を開発する設計指針を与えることが期待される。

この成果は、世界的な物理化学誌の一つである英国王立化学会 Physical Chemistry Chemical Physics 誌の第 22 巻 35 号（2020 年 9 月 21 日（月））に公開された。さらに、本成果は高い評価を受け、同学術誌の 2020 PCCP Hot Articles にも選出され、掲載号のバックカバーを飾った。このカバーアートは、カチオン側鎖におけるエーテル酸素原子の位置によって変化するピロリジニウム型イオン液体の輸送特性を「すごろく」になぞらえて表現したものである。

宮崎大学医学部看護学科後援会から５０万円の寄附があった



令和２年９月２５日（金）に宮崎大学医学部看護学科後援会長の土谷和利会長から、「新型コロナウイルス感染症の影響により誰もが感染の危機に直面しているなか、宮崎大学医学部は、附属病院の患者さんや学生の安全確保を最優先に考え、対面授業を取りやめ録画講義の配信を実施するなど、さまざまな対策をされていると聞いている。看護学科後援会としても、医学部の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一助になればと思い寄与したい。」として、５０万円の寄附があった。

これを受けて、宮崎大学医学部の片岡寛章医学部長から、「新型コロナウイルスという世界的な危機の中で、大学は学生に、様々な支援を行うことが必要と考えている。この度の貴重な寄附金は、学内の感染対策のみならず、学生教育のために大切に使わせていただきたい。」と謝辞があった。

令和２年度　宮崎大学大学院秋季入学式を挙行

令和２年１０月１日（木）に、令和２年度宮崎大学大学院秋季入学式が行われ、工学研究科 4 名、農学研究科 2 名、農学工学総合研究科 10 名、計 16 名（内、留学生 13 名）の入学が許可された。

コロナ禍で、残念ながら未だ入国できない留学生の参加が叶わない中での開催となったが、最大限の感染拡大防止対策を行い、最小限の式が執り行われた。

厳かな雰囲気の中、新入生代表から宣誓が行われた後、学長から、「COVID-19 の影響が大きい中、皆さんを迎えることができたことを嬉しく思う。宮崎という場所は、海・太陽・山・原野など、私たちが誇りに思う場所が豊富にあり、皆さんもそのような場所を沢山体験していただきたい。また、今後、本学の教職員とともに、このような良い環境で研究活動に邁進していただきたい。」と、訓辞が述べられた。

「令和２年度宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」を開催

令和２年 10 月３日（土）、宮崎大学は宮崎銀行との共同主催により、「令和２年度宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」決勝プレゼンテーションを宮崎市民プラザオルブライトホールで開催した。

本事業は、学生の持つ問題意識や発想力、構想力、研究成果を活かしたチャレンジを、宮崎大学・宮崎銀行がタッグを組んで支援し、宮崎から世界を視野に活躍する人材の育成・輩出を目指すもので、平成 29 年度から実施している。今年度から宮崎県、高等教育コンソーシアム宮崎とも連携し、募集対象を宮崎県内の大学・短大・高専生に拡大したことに伴い、名称を「宮崎大学ビジネスプランコンテスト」から「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」へ変更して開催した。

決勝プレゼンテーションまでには、ビジネスプラン作成講座やプレゼンテーション力向上講座といった、学生の想像力やチャレンジ精神や自ら考え解決する能力などアントレプレナーシップ醸成のための全ての教育プログラムをオンラインにて複数回実施し、応募学生 20 組から学内審査を見事突破した最終７組が決勝に臨んだ。

グランプリ（審査員特別賞同時受賞）には、スマートフォンのケースに収容可能な薄型の非常食を提案した『MOBILE FOOD－災害時食のリスクを解消する－スマホにスマート非常食』（宮崎大学 農学部応用生物科学科４年 安藤彩夏さん）が輝いた。宮崎大学長賞は、『タイミンググッド～吃音者の QOL 爆上げプロダクト！！～』（宮崎大学 農学部応用生物科学科２年 西迫政人さん）、宮崎銀行頭取賞は、『リンク～福祉施設の思いを繋ぎたい～』（宮崎大学 工学部電子物理工学科２年 藤島旺志さん、栗坂明佳さん、宮崎公立大学 人文学部国際文化学科１年 今西美澪さん）がそれぞれ受賞した。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、県外にいる発表学生２組、審査員についてはテレビ会議システムにより参加、一般観覧はオンライン配信のみという異例の形式にて開催し、当日の YouTube 総視聴数は 1,497 人を記録した。

また、公式 Web サイトでは、もう１つのコンテストとして惜しくも決勝進出を逃した学生８組による「３分ピッチアワード」を新たに開催し、Web サイト閲覧者による投票により、ポスターセッション・オーディエンス賞２組が選ばれた。

年々規模が拡大する本事業では、宮崎の若者に対する起業家教育と若者が挑戦できる場の創出に活発に取り組んでおり、参加者からは新たな取組に挑戦する宮崎大学へ大きな期待が寄せられた。

・みやざきビジコン公式 Web サイトへのリンク「https://www.miyazaki-u.ac.jp/busicon/」

・決勝プレゼンテーションの配信動画「https://youtu.be/-DhBS9DFzf8」

綾中学校が修学旅行で宮崎大学を訪問

令和2年10月9日（金）、綾町立綾中学校（宮崎県）2年生2クラス49名が修学旅行の一環で宮崎大学を訪問し、「自然エネルギー講座」および「平和講座」を受講した。

新型コロナウイルスの影響で修学旅行を県内で行う小中学校が増えるなか、本学では公益財団法人宮崎市観光協会と連携し、工学部の吉野賢二教授および永岡章助教が講師を務め、自然エネルギー講座を実施した。講座では、快晴日数が全国的にも上位である宮崎県の特性を生かして実施している研究紹介を行うとともに、キャンパス内にある集光型太陽光発電システムの視察を行い、常に太陽を追尾しながら発電効率を高めるための研究が紹介された。

また、本学附属図書館において実施している「宮崎基地特攻資料展」を訪れ、戦史研究家で今回の資料展を企画・監修している稲田哲也氏（南九州文化研究会）が講師を務める「平和講座」を受講。現在の宮崎空港が戦時中は海軍航空隊の基地であり、そこに全国各地から集まった20歳前後の130名を超える優秀な若者が特別攻撃隊として飛び立ったことなど、本県で起こった特攻隊の悲劇について学んだ。

その他、多くの日本人が命を落としたと同時に、38名のアメリカ兵が宮崎県内で撃墜されたことが原因で命を落としたことなどについても稲田氏から説明され、「戦争により日米両国が苦しい時代を過ごした。二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、宮崎で起こった事実を知って欲しい。そして、戦争を起こさないためには、家族や友人に感謝するとともに、身近にいじめなどがあれば、それをなくそうとすることから始めて欲しい」と中学生に対して強いメッセージが送られ、受講した中学生からは「聞いたことは衝撃的なことばかりで、いかに戦争が残酷であるかよくわかった」などの感想が寄せられた。

宮崎大学では、今後も10校の小学校の修学旅行を受け入れる予定で、地元宮崎県の歴史や魅力などを伝えるなど、コロナウイルスの影響の中でも対応できるプログラムを提供して、これまで以上に地域に貢献できる大学を目指していくこととしている。

【宮崎基地について】

昭和18年に利用が開始され、短期間訓練基地や南方戦線への中継基地として使用された。昭和19年10月からは台湾沖航空線への中継基地となり、戦局が悪化した昭和20年3月21日、宮崎基地からの特攻隊第一陣である第一銀河隊が出撃。5月25日の第十銀河隊に至るまで未帰還機44機131名が散華した。現在は宮崎空港や航空大学校となっている。

医学部附属病院から宮崎フードイベントサポート協会に感謝状を贈呈

10 月 14 日（水）、医学部附属病院は、宮崎フードイベントサポート協会の渡辺　純一会長に感謝状を贈呈した。

本院では、新型コロナウイルス対策による学生食堂の混雑緩和のため、6 月 8 日から協会に本院構内でのキッチンカーの出店を依頼しているが、この度、協会から新型コロナウイルス感染症に対応する本院職員に感謝と応援のメッセージを込め、500 円食事券 600 枚を寄贈いただいた。これを受けて 9 月 28 日（月）から 10 月 9 日（金）の期間で、多くの職員が食事券を利用して美味しいグルメを楽しんだ。

感謝状贈呈後、鮫島医学部附属病院長から、「本院の新型コロナウイルス感染症に対する医療活動にご理解いただき、心暖まるご厚意に大変感謝している」と謝辞が述べられた。

宮崎基地特攻資料展記念講演会を開催

令和 2 年 10 月 15 日（木）、宮崎大学 330 記念交流会館コンベンションホールにおいて「宮崎基地特攻資料展記念講演会」を実施し、約 100 名の学生と教職員が参加した。

本記念講演会は、大学生をはじめとする若い世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えることを目的として、同年 8 月 19 日から実施している宮崎基地特攻資料に係る展示最終日に合わせて実施したもので、戦史研究家である稲田哲也氏（南九州文化研究会）と元特攻隊員の庭月野英樹氏が講師を務めた。

稲田氏は、宮崎市在住で水質管理に関する本業の傍らで郷土の戦史研究を行う 49 歳。現在の宮崎空港について戦時中と現在の様子を比較しながら説明したほか、宮崎を最期の地として飛び立った宮崎県出身の特攻隊員 2 名について説明するとともに、本学において実施した資料展がきっかけとなって届いた遺書などをもとに、検閲を受けた遺書と検閲を

受けていない遺書を比較しながら、特攻隊員の想いに心を寄せながら当時の状況を説明した。

庭月野氏は、沖縄海軍航空隊や木更津海軍航空隊などに所属し、木更津で特攻出撃待機中に終戦を迎えた 94 歳で、沖縄航空隊に所属した 1944 年には、日中に航空機のパイロットとして沖縄から長崎に向けて出航した対馬丸を護衛していた経験も持つ（同日夜間に潜水艦による魚雷攻撃を受けて沈没）。同氏からは、「皆さんはこんな平和な時代に生まれてよかった。平和な世の中であれば私も大学に行ってみたかった。是非、自分に向いた仕事を見つけて頑張って欲しい」と、学生に向けて心のこもったメッセージが送られた。

受講した大学生からは「知らないことばかりだった」「一言一言がとても重たかった」「宮崎で起こった悲しい出来事を繰り返さないために、私たちが語り継いで行く必要があると感じた」などの感想が寄せられた。

宮崎基地特攻資料展は 8 月中旬から約 2 ヶ月間開催され、宮崎基地を最期の地として飛び立った特攻隊員の紹介、宮崎大学附属小学校が爆撃されて生徒が命を落とした事件が発生した原因について紹介しているほか、宮崎県内で撃墜されたことが理由で命を落としたアメリカ軍兵士の紹介もするなど、日米両国からの視点により宮崎県内で起こった事実を紹介していることが特徴。

宮崎大学では、このような資料展や講演会を通じて、今後も平和に対する強いメッセージを発信していくこととしている。

【宮崎基地について】

昭和 18 年に利用が開始され、短期間訓練基地や南方戦線への中継基地として使用された。昭和 19 年 10 月からは台湾沖航空戦への中継基地となり、戦局が悪化した昭和 20 年 3 月 21 日、宮崎基地からの特攻隊第一陣である菊水部隊銀河隊が出撃。5 月 25 日の第十銀河隊に至るまで未帰還機 44 機 131 名が散華した。現在は宮崎空港や航空大学校となっている。

宮崎大学公開講座「親子で学ぶ天気と防災」を実施

令和2年10月17日（土）、宮崎大学まちなかキャンパス（宮崎市若草通アーケード内）にて、公開講座「親子で学ぶ天気と防災」を開催した。

本講座は、UMKテレビ宮崎の気象予報士である酒井晋一郎氏を講師として招き、受講した親子は天気や防災について学んだ。

講座の前半は、雲や竜巻、高潮がどのようにして起こるのかの解説があり、あわせて、大雨による増水や落雷などから身を守る方法について、映像を交えながらクイズや実験を行った。受講していた小学生の子ども達は積極的に質問し、途中、休憩時間に入っても装置の周りに集まり実験の続きをするほど興味を示していた。

また、講座の後半は、親子で雲に見立てた色の異なる綿を使って雲の図鑑を作成し、小学生のみならず保護者も夢中になり取り組む様子が見られた。

最後の質疑応答では、たくさんの質問が投げかけられ、好奇心をそそる内容だったことがうかがえた。